

# 2021年度 第3回九大本番レベル模試(教法経) 国語 採点基準

全問題に共通する基準

国語の答案については次のように採点します。

- 1 次の各項に該当するものは、配点はないものとし、形式上の不備として、その設問の得点から一箇所について1点ずつ減点します。ただし、配点を越える減点はしないこととします。
  - a 誤字脱字。同じ漢字を複数回誤っても同一の大問の中では2回目以降はカウントしないこととします。脱字は一箇所につき1点の減点とします。
  - b 文を記述する設問で文末の句点の抜けている場合も脱字とし1点減点します。
  - c 字数指定のあるとき、最後のマス目まで文字が書いてある場合も脱字とし1点減点します。
  - d 字数指定のあるとき、最後のマス目に文字と句点を同居させている場合。これは本来字数超過で3bから0点とすべきですが脱字とし1点の減点に留めます。
  - e 字数指定のあるとき、一マスに記述記号と文字を同居させたり、あるいは吹き出し用いたり二重線で消したりするなど、解答欄を不適切に用いたものは、原則としてそれぞれ1点の減点とします。
  - f 不適切な文末処理。たとえば「…とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないもの。また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなど。ただし、「ことである。」「などの表現も」「こと」で結んでいるものと認めます。また、「から」で結んでいるものと認めます。
- ※文末の処理の仕方について各大問・各設問で異なる指示がある場合があります。不問とする場合もあれば配点されている場合もあります。
- 2 日本語の表現として不適切なものは、減点対象となります。
- 3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。
  - a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。
  - b 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたものの。
  - c 説明問題で、解答が途中で終わっているもの。
- 4 記述式の設問は、原則として採点基準に従い部分点を与えますが、本文の趣旨と採点基準の考え方からして誤りが認められる場合、配点の範囲内で減点される場合もあります。

☆二・三の現代文の配点は、「内容点」(ABC・・・)と「構造点」(XYZ・・・)で構成されます。また、内容点は各条件内に要素(①②③・・・)が3つ以上あり、得点がある場合、満点の範囲内で要素点が1点プラスされます。

一 評論 (60点)

問1 12点

(模範解答例)

A①〇1点 A②〇2点

日本人は 明治の近代化の中で太陰暦を太陽暦に改めたが、〈A3点〉

B①〇2点

B②〇1点

B③〇2点

日常的には旧盆や旧正月のような習俗を通して、 生活、生き方などを 未だ円環的時間意識に基づかせており、

C①〇2点

C②〇1点

〈B5点〉

導入された直線的时间意識には非常にルーズであり、 軽視の対象でしかなかった。〈C3点〉

X〈逆説〓矛盾を含むこと〉〓〈A、B、Cの要素〉の三要件の内の二つ以上あり、意味が成立している。↓〇+1点

(内容【11点】+構造【1点】〓12点)

【構造点】

・Xは、Aを、〈矛盾〉する二条件であるB、Cに引き裂いて説明してゆく〈逆説〓矛盾を含むこと〉の構造への評価である。  
ここでは、〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉の三要件の内の二つ以上があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A 「日本人は明治の近代化の中で太陰暦を太陽暦に改めたが、」〈3点〉

※ 傍線部を説明するための話題提示の条件。

① 「日本人は」(1点)

✖ 「日本(人)」の成分が入っていないければ✖。

② 「明治の近代化の中で太陰暦を太陽暦に改めたが、」(2点)

○ 「明治になって西欧の近代化を受け入れたときに太陰暦を太陽暦に切り替えたが、」  
「明治の文明開化の過程で太陰暦を太陽暦に移行させたが、」などでも可○。

✖ 「明治の近代化」「太陽暦↓太陰暦」のニュアンスの二成分が入っていないければ✖。

B 「日常的には旧盆や旧正月のような習俗を通して、生活、生き方などを未だ円環的時間意識に基づかせており、」  
〈5点〉

※ 傍線部を説明すべく、Aを説明してゆく一方の条件。

- ① 「日常的には旧盆や旧正月のような習俗を通して、」(2点)  
○ 「普段は旧正月のような習俗を通して、」「日常生活ではさまざまな習俗を通して、」などでも可○。  
× 「(旧盆や旧正月のような)習俗を通して」のニュアンスの成分が入っていないければ×。  
② 「生活、生き方などを」(1点)  
○ 「時間、空間、さらに生活、生き方の問題を」「生活や生き方の問題などを」などでも可○。  
× 「時間 or 空間 or 生活 or 生き方」の成分が入っていないければ×。  
③ 「未だ円環的時間意識に基づかせており」(2点)  
○ 「相変わらず円環的時間に結びつけており、」「いまだに円環的時間意識に依拠させており」なども可○。  
× 「円環的時間(意識)に基づかせている」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

C 「導入された直線的时间意識にはルーズであり、軽視の対象でしかなかった。」〈3点〉

※ 傍線部を説明すべく、Aを説明してゆく、Bとは〈矛盾〉する他方の条件。

- ① 「導入された直線的时间意識には非常にルーズであり、」(2点)  
○ 「導入された直線的时间意識には厳密に対応する必要を感じず、」「輸入された直線的时间には非常に寛容であり、」などでも可○。「導入された」という説明が不足しているものは不可×。  
② 「軽視の対象でしかなかった。」(1点)  
○ 「価値を置く対象ではなかった。」「重要視されることはなかった。」などでも可。  
× 「軽視」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

## 問2 12点

(模範解答例)

A ○ 1点

日本では、〈A 1点〉

B ① ○ 1点 B ② ○ 2点

B ③ ○ 1点

人々が腕時計をして、背広を着て勤めているのが、公的な時間で、〈B 4点〉

C ① ○ 1点 C ② ○ 1点 C ③ ○ 1点

C ④ ○ 2点

勤めから帰って、腕時計を外し、 浴衣や普段着に着替え、 時間と無関係な贈り物とかの習慣に従うのが

C ⑤ ○ 1点

私的な時間。〈C 6点〉

X 〈分析Ⅱ分けること〉↓BとCがあり、意味が成立していれば+1点

(内容【11点】+構造【1点】=12点)

【構造点】

・ Xは、傍線部を説明すべく、「場」のAを、B、Cの〈矛盾〉しない二条件に〈分析Ⅱ分けること〉として説明してゆく構造への評価である。ここでは、〈Bの要素とCの要素〉があれば、この構造の骨組みがほぼ成立しているとみなして1点加算。

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X（1点）は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A 「日本では、」（1点）

※ 傍線部を説明するための「場」の条件。

× 「日本」の成分が入っていないければ×。

B 「人々が腕時計をして背広を着て勤めているのが公的な時間で、」（4点）

※ 傍線部を説明すべく、Aについて説明してゆく一方の条件。

① 「人々が腕時計をして」（1点）

○ 「人が腕時計をはめて」「腕時計を身に着けて」などでも可○。

× 「腕時計をする」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「背広を着て勤めているのが」（2点）

○ 「背広を身に着けて働いているのが」「背広姿で勤めに出ているのが」などでも可○。

× 「背広を着て勤めている」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「公的な時間で、」（1点）

× 「公的（な）時間」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

C 「勤めから帰って腕時計を外し、浴衣や普段着に着替え、時間と無関係な贈り物とか

の習慣に従うのが私的な時間。」（6点）

※傍線部を説明すべく、Aについて説明してゆく他方の条件。

① 「勤めから帰って」（1点）

○ 「勤務から戻って」「勤めから解放されて」などでも可○。

× 「勤めから戻る」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「腕時計を外し、」（1点）

○ 「腕時計を取り外し、」「腕時計を置いて」などでも可○。

× 「腕時計を外す」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「浴衣や普段着に着替え、」（1点）

○ 「浴衣に着替え、」「普段着に着替え、」などでも可○。

× 「浴衣 or 普段着に着替える」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

④ 「時間と無関係な贈り物とかの習慣に従うのが」（2点）

○ 「時間とは直接関係ない贈与互酬の関係に従うのが」「時間の制約を受けないプレゼントとか贈り物とかの習慣に入るのが」などでも可○。

× 「時間と無関係の贈与互酬の習慣（関係）」のニュアンス成分が入っていないければ×。

⑤ 「私的な時間。」（1点）

× 「私的（な）時間」のニュアンス成分が入っていないければ×。

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

A③○1点

まず、キリスト教は 洗礼を受けたら天国にいけるという 救いを提示していたし、〈A3点〉

B①○1点

B②○2点

またヨーロッパの周辺では、キリスト教の背後にある武力などの文明の力によって

B③○1点

教化されていったから、〈B4点〉

X〈分析〉AとBに○↓+1点

(内容【7点】+構造【1点】=8点)

【構造点】

・Xは、まさしく傍線部の問いかけの理由を、〈矛盾〉しない二条件A、Bに〈分析〳分けること〉として説明してゆく構造への評価である。ここでは、Aの要素、Bの要素がそれぞれ二つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X〈分析〳分けること〉 Aの要素+Bの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A 「まず、キリスト教は洗礼を受けたら天国にいけるといいう救いを提示していたし、」〈3点〉

※ 傍線部の問いかけの理由を説明する一方の条件。

① 「まず、キリスト教は」(1点)

× 「キリスト教」の成分が入っていないければ×。

② 「洗礼を受けたら天国にいけるといいう」(1点)

○ 「洗礼によって天国行きを確保という」「洗礼を受ければ天国に迎え入れられるという」などでも可○。

× 「洗礼による天国行き」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「救いを提示していたし、」(1点)

○ 「救いを教示していたし、」「救いを保証していたし、」などでも可○。

× 「救いの提示」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

B 「またヨーロッパの周辺では、キリスト教の背後にある武力などの文明の力によって教化されていったから。」  
〈4点〉

※ 傍線部の問いかけの理由を説明する他方の条件。

- ① 「またヨーロッパの周辺では、」(1点)  
✖ 「ヨーロッパの周辺」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。  
○ 「文明の程度の低いところ」でも可○。  
② 「キリスト教の背後にある武力などの文明の力によって」(2点)  
○ 「キリスト教の背景にある武力を含む文明の様々な手段によって」「キリスト教を支えている武力を中心とする文明の力によって」などでも可○。  
✖ 「キリスト教の背後の武力など(の文明の力)によって」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。  
③ 「教化されていったから。」(1点)  
○ 「教化が進められていったから。」「教化が浸透していったから。」などでも可○。  
✖ 「教化」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

問4 12点

(模範解答例)

A①○2点

A②○2点

教会の塔の中に機械時計が据えられて、時間が神の創作物であることの証拠とされたが、〈A 4点〉

B①○2点

B②○2点

〈B 4点〉

他方で「時間は運動の教」というアリストテレスの時間意識の現れとして、商人の活動を支えることにもなり、

C○2点

X〈逆説〉A+B→+1点

商人と教会の争いの象徴となっていた。〈C 2点〉

Y〈総合〉C○→+1点

(内容)【10点】+構造【2点】=12点

【構造点】

- ・ Xは、傍線部を、A、Bの〈矛盾〉する二条件に引き裂いて説明してゆく〈逆説=矛盾を含むこと〉の構造への評価である。
- ・ ここでは、Aの要素とBの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。
- ・ Yは、A、BをCに〈総合=まとめること〉する構造への評価である。ここでは、条件Cがあれば、この構造の骨組みが暗黙裡に成立しているとみなして1点加点。

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)・Y(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合のみ加点する。

A 「教会の塔の中に機械時計が据えられて、時間が神の創作物であること」の証拠とされたが、〈4点〉

※ 傍線部の説明をするための一方の条件。

① 「教会の塔の中に機械時計が据えられて、」(2点)

○ 「教会の塔に時計が据えられて」、「教会の塔の前面に機械時計が設置されて」、「などでも可○。  
✖ 「教会の塔に時計を設置」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

② 「時間が神の創作物であることの証拠とされたが」、「(2点)

○ 「時間とは神が作ったものであることの証だとされたが」、「時間は神の創造によるものであることの印だとされたが」、「などでも可○。

✖ 「時間は神の創作物であることの証拠」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

B 「他方で『時間は運動の数』というアリストテレスの時間意識の現れとして商人の活動を支えることにもなり、」

〈4点〉

※ 傍線部の説明をするための、Aとは〈矛盾〉する他方の条件。

① 「他方で『時間は運動の数』というアリストテレスの時間意識の現れとして」(2点)

○ 「一方『時間は運動の数』なるアリストテレスの時間意識の現前として」「反対に時間を運動の数とするアリストテレスの時間意識の具体化したものとして」などでも可○。

✖ 『時間は運動の数』というアリストテレスの時間意識の現れ」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

(「時間は運動の数」「現れ」という要素を一つでも欠くものは不可✖。)

② 「商人の活動を支えることにもなり、」(2点)

○ 「商人の活動の手段ともなり、」「商業活動の基盤ともなり、」などでも可○。

✖ 「商人(や市民)の活動を支える」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

C 「商人と教会の争いの象徴となっていた。」〈2点〉

※ A、Bをまとめて結論づける条件。

○ 「商人と教会の相克のシンボルとなっていた。」「商人と教会の葛藤の表徴となっていた。」などでも可○。

✖ 「商人と教会の争いの象徴」のニュアンスの成分が入っていないければ✖。

問5 10点

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

円環的時間意識の中にいる多数の人が、江藤さんは妻のところへ行きたいのだと書いているが、〈A 2点〉

B①○1点 B②○2点

B③○2点

筆者は、江藤さんは妻の死には整理をつけており、身体的に書くことが出来なくなったので死を選ぶという

B④○2点

直線的な時間意識の中にいたと考えている。〈B 7点〉

X 〈逆説〉 A+B ↓ +1点

【構造点】

・ Xは、傍線部について、「多くの人」と筆者の、〈矛盾〉する考え方A、Bに引き裂いて説明してゆく〈逆説||矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、A、Bの要素がそれぞれ一つ以上あればこの構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A 「円環的時間意識の中にいる多数の人が、江藤さんは妻のところへ行きたいのだと書いているが、」(2点)

※ 傍線部を説明するための一方の条件。

① 「円環的時間意識の中にいる多数の人が、」(1点)

○ 「円環的時間意識に捕らわれている多くの人が、」 「円環的時間意識の中に生きている大多数の人が」などでも可○。

× 「円環的時間意識の中にいる多数の人」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「江藤さんは妻のところへ行きたいのだと書いているが、」(1点)

○ 「江藤さんは妻のところへ行きたかったのだと書いているが、」 「江藤さんは妻と一緒にいたいのだと書いているが、」などでも可○。

× 「江藤さんは妻と一緒にいたい」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

B 「筆者は、江藤さんは妻の死には整理をつけており、身体的に書くことが出なくなったので死を選ぶという直線的な時間意識の中にいたと考えている。」(7点)

※ 傍線部を説明するための、Aとは〈矛盾〉する他方の条件。

① 「筆者は、」(1点)

× 「筆者」の成分が入っていないければ×。

② 「江藤さんは妻の死には整理をつけており、」(2点)

○ 「江藤さんは妻の死には心の整理をつけており、」 「江藤さんは妻の死については気持ちの上で整理がついており、」などでも可○。

× 「江藤さんは妻の死には整理をつけている」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「身体的に書くことが出来なくなったので死を選ぶという」(2点)

○ 「書くことについての身体上の条件に限界を感じたので死を選択するという」 「書くことに体がついて行けなくなったので死を決心するという」などでも可○。

× 「身体的に書くことが出来なくなったので死を選ぶ」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

④ 「直線的な時間意識の中にいたと考えている。」(2点)

○ 「直線的な時間意識を身につけていたと感じている。」 「直線的な時間意識の中で生きていたと受け止めている。」などでも可○。

× 「直線的な時間意識の中にいたと考えている」のニュアンスの成分が入っていないければ×。



(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

ヨーロッパやアメリカの人々の中にも、

妻が夫と共に埋葬されるのを望む場合のように

A③○1点

円環的時間意識がみられるが、

〈A3点

B①○1点

B②○1点

彼らは徐々に直線的时间意識の方に 移行しつつあるということ。 〈B2点

X 〈逆説〉 A+B→○1点

【構造点】

・ Xは、傍線部の部分否定のニュアンスを、〈矛盾〉するA、Bの二条件に引き裂いて説明する〈逆説||矛盾を含むこと〉の構造への評価である——部分否定は〈肯定〉と〈否定〉入り交じることで〈矛盾〉を内包し、〈逆説||矛盾を含むこと〉を形成する——。ここではA、Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A「ヨーロッパやアメリカの人々の中にも、妻が夫と共に埋葬されるのを望む場合のように円環的時間意識がみられるが、」〈3点

※傍線部を説明する一方の条件。

①「ヨーロッパやアメリカの人々の中にも、」(1点)

○「ヨーロッパ人やアメリカ人の中にも、」「欧米人の中にも、」などでも可○。

※「欧米人」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

②「妻が夫と共に埋葬されるのを望む場合のように」(1点)

○「妻が夫と同じ墓に埋葬されるのを希望する場合のように」「夫婦が共に埋葬されるのを望むケースのように」などでも可○。

※「夫婦が共に埋葬されるのを望む」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

③「円環的時間意識がみられるが、」(1点)

※「円環的時間意識」の成分が入っていなければ✖。

B「彼らは徐々に直線的时间意識の方に移行しつつあるということ。」「〈2点

※傍線部を説明する、Aとは〈矛盾〉する他方の条件。

①「彼らは徐々に直線的时间意識の方に」(1点)。

○「彼らは漸進的に直線的时间意識へと」「彼らは次第に直線的时间意識に向けて」などでも可○。

※「直線的时间意識への」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

②「移行しつつある」ということ。」「(1点)

○「移行している」ということ。「向かいつつある」ということ。」「などでも可○。

※「移行」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

問1 12点

(模範解答例)

A①○1点 A②○1点

A③○1点

人間が データを解析して得たプログラムをAIに学習させる 従来の方式ではなく、〈A3点〉

B①○1点 B②○1点 B③○1点

AIが 人間の脳と同じく、大量のデータを読み取った後、自分で学習していくもので、〈B3点〉

X○〈分析〉AとBに○↓+1点

C①○1点 C②○1点 C③○1点 C④○1点

AIが 処理能力のみならず 集中力でも人間を上回ることになる 学習の技術、〈C4点〉

Y○〈総合〉Cが○↓+1点

(内容【10点】+構造【2点】=12点)

【構造点】

・Xは、傍線部を説明すべく、A、Bの〈矛盾〉しない二条件に〈分析〳分けること〉として説明してゆく構造への評価である。ここでは、Aの要素とBの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

・Yは、A、Bの二条件をCに〈総合〳まとめること〉として結論づける構造への評価である。ここでは条件Cの要素が一つ以上あれば、この構造の骨組みが暗黙裡に成立しているとみなして1点加点。

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)・Y(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A「人間がデータを解析して得たプログラムをAIに学習させる従来の方式ではなく、」〈3点〉

① 「人間が」(1点)

✖ 「人間」の成分が入っていないければ✖。

② 「データを解析して得たプログラムをAIに学習させる」(1点)

○ 「データの解析の結果であるプログラムをAIに学ばせる」「データ解析の結果をプログラム化したものをAIに学習させる」などでも可○。

✖ 「データ解析で得たプログラムをAIに学習させる」のニュアンスの成分が入っていないければ✖0点。

③ 「従来の方式ではなく、」(1点)

○ 「今までのやり方ではなく、」「旧来の方法ではなく、」などでも可○。

✖ 「従来の方式の否定」のニュアンスの成分が入っていないければ✖0点。

B 「AIが人間の脳と同じく、大量のデータを読み取った後、自分で学習していくもので」〈3点〉

① 「AIが」(1点)

✖ 「AI」の成分が入っていないければ✖0点。

② 「人間の脳と同じく、」(1点)

○ 「人間の脳のように、」「人間の脳と同様に、」などでも可○。

✖ 「人間の脳と同様」のニュアンスの成分が入っていないければ✖0点。

③ 「大量のデータを読み取った後、自分で学習していくもの、」(1点)

○ 「大量のデータの読み取りの後、自ら学んでいくもので、」「ビッグ・データの読み込みの上で自律的に学習してゆくもので、」などでも可○。

✖ 「大量のデータの読み取りの後、自分で学んでいく」のニュアンスの成分が入っていないければ✖0点。

C 「AIが処理能力のみならず集中力でも人間を上回ることになる学習の技術。」の要素。〈4点〉

① 「AIが」(1点)

✖ 「AI」の成分が入っていないければ✖0点。

② 「処理能力のみならず」(1点)

○ 「処理能力だけでなく」「データ処理能力は勿論」などでも可○。

✖ 「処理能力」のニュアンスの成分が入っていないければ✖0点。

③ 「集中力でも人間を上回ることになる」(1点)

○ 「集中力においても人間を凌駕する」「集中力でも人間を超える」などでも可○。

✖ 「集中力で人間を上回る」のニュアンスの成分が入っていないければ✖0点。

④ 「学習の技術。」(1点)

○ 「学習方法。」「学習のテクノロジー」などでも可○。

✖ 「学習技術」のニュアンスの成分が入っていないければ✖0点。

問2 9点

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

人間の理性が普遍的であり、つまり万能で無限であるのに対して。〈A2点〉

B①○1点 B②○1点

機械は、どこまでいっても個別の集合にすぎず。〈B2点〉

C①○1点

C②○1点

C③○1点

X〈分析〉AとBに○↓+1点

そのようなロボットは、AIと呼ばれるようになって尚、人間のシモンであることが基本だと考えてしま

かちであること。〈C3点〉

Y○〈総合〉Cが○↓+1点

〈内容〉【7点】+構造【2点】=9点

【構造点】

・Xは、傍線部を説明すべく、〈矛盾〉しない二条件A、Bに〈分析〉分けることとして説明して行く構造への評価である。ここでは、A、Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

・Yは、条件A、Bを、条件Cに〈総合しまとめること〉として結論づける構造への評価である。ここでは、条件Cの要素があれば、この構造の骨組みが暗黙裡に成立しているとみなして1点加算。

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X（1点）・Y（1点）は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A 「人間の理性が普遍的であり、つまり万能で無限であるのに対して、」〈2点〉

※ 傍線部の説明をするための一方の条件。

① 「人間の理性が普遍的であり、」（1点）

○ 「人間の理性が普遍的な道具であり、」「人間理性が普遍的な性格をもつものであり、」などでも可○。

× 「人間理性の普遍性」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「つまり万能で無限であるのに対して、」（1点）

○ 「つまりどんなことに出合っても役立ちうるのに対して」「つまり、どこでもなんでも当てはまるといふことを意味するのに対し、」などでも可○。

× 「万能あるいは無限」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

B 「機械はどこまでいっても個別の集合にすぎず、」〈2点〉

※ 傍線部の説明をするための他方の条件。

① 「機械は」（1点）

× 「機械」の成分が入っていないければ×。

② 「どこまでいっても個別の集合にすぎず、」（1点）

○ 「個別の集合に行き着くものであり、」「個別の集合を超えるものではないし、」などでも可○。

× 「個別の集合」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

C 「そのようなロボットは、AIと呼ばれるようになって尚、人間のシモベであることが基本だと考えてしまいがちであること。」〈3点〉

※ A、Bをまとめて結論づける条件。

① 「そのようなロボットは」（1点）

○ 「そのようなものとしてのロボットは、」「そういう意味でロボットは、」などでも可○。

× 「そのようなロボット」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

② 「AIと呼ばれるようになって尚、」（1点）

○ 「AIという名で呼ばれるようになっても、」「AIという呼称を与えられるようになってさえも」などでも可○。

× 「AIと呼ばれる」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

③ 「人間のシモベであることが基本だと考えてしまいがちであること。」（1点）

○ 「人間に仕えるものだと考えがちだということ。」「人間に従属するものと考えるのが普通だということ。」などでも可○。

× 「人間のシモベと考えがちである」のニュアンスの成分が入っていないければ×。

(模範解答例)

A①○1点

人間とコンピュータが協調関係に入って、

A②○1点

人間の創造性が高まり、

A③○1点

多様な価値観が重要視され、

A④○1点

生産性も上がる社会状況の中で、

B①○1点

B②○1点

ルーティンや複雑な仕事は、ロボットがやり、

C①○1点

C②○1点

人間は、クリエイティブな部分を担当するようになること。 (C2点)

X (分析) ABCの要素のうち2つ以上○→+1点 (9点)

(内容【8点】+構造【1点】=9点)

【構造点】

・Xは、傍線部を説明すべく、前提となるA「社会状況」を、B(ロボット)とC(人間)の〈矛盾〉しない領域である二条件に〈分析〉分けることとする構造への評価である。ここでは、〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉の三要件の内二要件以上があれば、この構造の骨組みが我ほぼ成立しているともなして1点加算。

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A「人間とコンピュータが協調関係に入って、人間の創造性が高まり、多様な価値観が重要視され、生産性も上がる社会状況の中で、」(4点)

※傍線部を説明するための前提条件(社会状況)。

①「人間とコンピュータが協調関係に入って、」(1点)

○「人間とコンピュータの協調により、」「人間とコンピュータが共存関係に入り、」などでも可○。

×「人間とコンピュータの協調」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

②「人間の創造性が高まり、」(1点)

○「人間の創造力が上昇し、」「人間がより創造的になり、」などでも可○。

×「人間の創造性の向上」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

③「多様な価値観が重要視され、」(1点)

○「価値観の多様性が重視され、」「様々な価値観が認められ、」などでも可○。

×「多様な価値観の重視」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

④「生産性も上がる社会状況の中で、」の要素。

○「生産性も向上する社会状況の中で、」「生産性も伸びる社会の状況において、」などでも可○。

×「生産性も上がる社会状況」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

B 「ルーティンや複雑な仕事はロボットがやり、」〈2点

※ 傍線部を説明すべく、Aを説明してゆく一方の条件（ロボット）。

① 「ルーティンや複雑な仕事は」(1点)

○ 「決まり切った仕事や込み入った仕事は」「定型的な仕事や面倒な仕事は」などでも可○。

× 「ルーティンや複雑な仕事」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「ロボットがやり、」(1点)

○ 「ロボットが担当し、」「ロボットが受け持ち、」などでも可○。

× 「ロボットの担当」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

C 「人間はクリエイティブな部分を担当すること。」〈2点

※ 傍線部を説明すべく、Aを説明してゆく他方の条件（人間）。

① 「人間は」(1点)

× 「人間」の成分が入っていないければ×0点。

② 「クリエイティブな部分を担当すること。」(1点)

○ 「クリエイティブな分野を受け持つようになること。」「創造的な部分を引き受けるようになること。」などでも可○。

× 「クリエイティブな部分を担当」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

#### 問4 11点

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

A③○1点

シンギュラリティとは、

生物的思考と存在がテクノロジーと融合する

臨界点であり、

B①○1点

B②○1点

その世界は未だ人間的ではあるが、

生物の基盤を超え、

C①○1点

C②○1点

人間と機械、現実とVRの区別がなく、

X 〈分析〉ABC2要素以上○↓+1点

D①○1点

D②○1点

人間の定義、世界のルールが、

変わってしまうという結果をもたらす。

Y 〈総合〉Dが○↓+1点

(内容【9点】+構造【2点】=11点)

【構造点】

・ Xは、傍線部を説明すべく、話題提示の条件Aを、B、Cの〈矛盾〉しない二条件に〈分析〳分けること〉として説明して行く構造への評価である。ここでは、〈Aの要素、Bの要素、Cの要素〉の三要件の内二要件以上があれば、この構造の骨組みが成立している」とみなして1点加算。

・ Yは、B、CをDに〈総合〳まとめること〉する構造への評価である。ここでは、条件Dの要素があれば、この構造の骨組みが暗黙裡に成立している」とみなして1点加算。

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)・Y(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A 「シンギュラリティとは、生物的思考と存在がテクノロジーと融合する臨界点であり、」〈3点〉  
※ 傍線部を説明するための話題提示の条件。

① 「シンギュラリティとは、」(1点)

○ 「シンギュラリティは、」技術的特異点とは、」などでも可○。

× 「シンギュラリティ(技術的特異点)」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「生物的思考と存在がテクノロジーと融合する」(1点)

○ 「われわれの生物的思考と存在が技術と融合合う」「生物としての思考と存在が機械と融合する」などでも可○。

× 「生物的思考・存在とテクノロジーの融合」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

③ 「臨界点であり、」(1点)

○ 「限界点であり、」「到達点であり、」などでも可○。

× 「臨界点」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

B 「その世界は未だ人間的ではあるが生物の基盤を越え、」〈2点〉

※ 傍線部を説明すべく、Aを説明してゆく一方の条件。

① 「その世界は未だ人間的ではあるが」(1点)

○ 「その世界は依然として人間的であっても」「その世界はまだ人間性を保ち得ているが」などでも可○。

× 「世界はまだ人間的」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「生物の基盤を越え、」(1点)

○ 「生物としての基盤を超越しており、」「生物的な基盤に止まらず、」などでも可○。

× 「生物の基盤の超越」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

C 「人間と機械、現実とVRの区別がなく、」〈2点〉

※傍線部を説明すべく、Aを説明してゆく他方の条件。

① 「人間と機械、」(1点)

× 「人間と機械(の区別がない)」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「現実とVRの区別がなく、」(1点)

× 「現実とVR(拡張現実)の区別がない」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

D 「人間の定義、世界のルールが変わってしまうという結果をもたらす。」〈2点〉

※B、Cをまとめて結論づける条件。

① 「人間の定義、世界のルールが」(1点)

○ 「人間とは何か、世界の規範が」「人間の意味、世界の規則が」などでも可○。

× 「人間の定義や世界のルール」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「変わってしまうという結果をもたらす。」(1点)

○ 「変化してしまうという帰結をもたらす。」「変わってしまうことになる。」などでも可○。

× 「変化という帰結」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

(模範解答例)

A①○1点 A②○1点

A③○1点

A④○1点

私たちは

何兆もの巨大分子機械

つまり細胞からできた

ロボットと言え

A⑤○1点

それが意識を持っている以上、〈A5点〉

B①○1点

B②○1点

B③○1点

ロボットを要素として成立し、

意識の存在を示すもの存在を

否定できないから、

〈3点〉

X〈分析〉AとBの要素がある↓+1点

(内容【8点】+構造【1点】=9点)

【構造点】

・Xは、傍線部の理由説明を、A、Bの〈因果関係〉なす〈矛盾〉しない二条件に〈分析〳分けること〉として説明する構造への評価である。ここでは、条件A、Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。

A「私たちは何兆もの巨大分子機械、つまり細胞からできたロボットと言え、それが意識を持っている以上、」

〈5点〉

※ 傍線部の理由説明をするための〈因果関係〉の〈因〉の条件。

①「私たちは」(1点)

○「われわれは」「人間は」などでも可○。

×「私たち」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

②「何兆もの巨大分子機械、」(1点)

○「何兆もある巨大分子機械」「何兆分もの巨大分子機械」などでも可○。

×「何兆(膨大な数の)巨大分子機械」のニュアンスの成分がなければ×。

③「つまり細胞からできた」(1点)

○「つまり細胞からなる」「つまり細胞で組み立てられた」などでも可○。

×「細胞からできた」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

④「ロボットと言え、」の要素。(1点)

○「ロボットとみなすことができ、」「ロボットと同じであって、」などでも可○。

×「ロボットと同じ」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

⑤「それが意識を持っている以上、」(1点)

○「それが意識をもった存在なら、」「それが意識を持っているのだから、」などでも可○。

×「意識を持っている」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。



B 「ロボットを要素として成立し、意識の存在を示すものの存在を否定できないから。」〈3点〉  
※傍線部の理由説明をするための〈因果関係〉の〈果〉の条件。

- ① 「ロボットを要素として成立し、」(1点)  
○ 「ロボットを要素として組み立てられ、」 「ロボットという要素からなる」 などでも可○。  
× 「ロボットを要素とする」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。  
② 「意識の存在を示すものの存在を」(1点)  
○ 「意識があることを示す存在を」「意識を持つ存在を」 などでも可○。  
× 「意識を持つ存在」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。  
③ 「否定できないから。」(1点)  
○ 「認めざるをえないから。」「否定するのは不可能だから。」 などでも可○。  
× 「否定の否定」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

問 6 10点

(模範解答例)

A①○1点 A②○1点

人間の意識の 客観的記述を要するが、〈A2点

B①○1点 B②○1点

意識は個体の自己意識である以上、 客観的記述は不可能であり、 他者の意識の存在も

不明であるから、〈B3点

X〈逆説〉 AとBの要素がある↓+1点

C①○1点 C②○1点

C③○1点

物理的に人間と同じ構造を持ち、 意識を持つと主張する機械は、 人間と同じ意識を持

つづるといふ見解。〈C3点

Y〈総合〉 C○↓+1点

(内容【8点】+構造【2点】=10点)

【構造点】

・ Xは、傍線部の反論に対する筆者の見解を、A、Bの〈矛盾〉する条件に引き裂いて説明してゆく〈逆説=矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、条件A、Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加

点。  
・ Yは、A、BをCに〈総合=まとめること〉して結論づける構造への評価である。ここでは、Cの要素があれば、この構造の骨組みが暗黙裡に成立しているとみなして1点加

◎ 採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X(1点)・Y(1点)は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加

A 「人間の意識の客観的記述を要するが、」〈2点

※傍線部の反論への筆者の見解を説明するための一方の条件。

① 「人間の意識の」(1点)

× 「人間の意識」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「客観的記述を要するが、」(1点)

○ 「客観的な条件の記述を必須とするが、」客観的な把握を必要とするが、」などでも可○。

× 「客観的記述の必要性」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

B 「意識は個体の自己意識である以上、客観的記述は不可能であり、他者の意識の存在も不明であるから、」

〈3点

※傍線部の反論への筆者の見解を説明するための、Aとは〈矛盾〉する他方の条件。

① 「意識は個体の自己意識である以上、」(1点)

○ 「意識とは個体の自己認識であるから、」意識とは個体の自己についての意識なので」などでも可○。

× 「意識＝個体の自己意識(認識)」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「客観的記述は不可能であり」(1点)

○ 「客観的に捉えることはできず、」個体以外の者は知り得ないし、」などでも可○。

× 「客観的記述の不可能性」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

③ 「他者の意識の存在も不明であるから、」(1点)

○ 「他者に意識があるかどうかもわからないのだから、」他者の意識の存在は確かめようがないから、」などでも可○。

× 「他者の意識の存在の不明性」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

C 「物理的に人間と同じ構造を持ち、意識を持つと主張する機械は、人間と同じ意識を持ちうるという見解。」

〈3点

※B、Cをまとめて結論づける条件。

① 「物理的に人間と同じ構造を持ち、」(1点)

○ 「人間と同じ物理的組成であり、」人間と同様の物理的構造を持ち、」などでも可○。

× 「人間と同じ物理的構造」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「意識を持つと主張する機械は、」(1点)

○ 「人間としての意識があると主張する機械は、」自らに意識があると主張する機械は、」などでも可○。

× 「意識の存在を主張する機械」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

③ 「人間と同じ意識を持ちうるという見解。」(1点)

○ 「意識を持つ可能性があるという見解。」人間と同等の意識を持つのを否定できないという見解。」などでも可○。

× 「意識を持ちうるという見解」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

三 古文（40点）

問1 各3点×4＝12点

〔傍線部①〕

A○2点

B○1点

（模範解答例）

舟に乗っている翁で

帽子をかぶっている者が【3点】

☆各加点要素の加点の条件

A「舟に乗っている翁で」（2点）

※「舟に乗りたる翁の」の解釈

○「たる」の存続の意味（～ている）＋「の」の同格用法（～で）。完答

※「舟に乗る翁で」「舟に乗っている翁が」は×0点。

B「帽子をかぶっている者が」（1点）

※「帽子したるが」の解釈。

○「たる」の存続の意味＋「が」の主格用法。「が」の前に「者・おじいさん・翁」を補足。完答。

〔傍線部②〕

A○2点

B○1点

（模範解答例）

たいした者でもありません【3点】

☆各加点要素の加点の条件

▲主語「私は」などはあってもなくても構わない。ただし、主語が違っていたら、▲1点減点。

○文末の句点「。」は不問。

A「たいした者」（2点）

※「させる者」の解釈

○「たいした者・ひとかどの人物」なども可。

B「でもありません。」（1点）

※「にも侍らず」の解釈。

○「断定＋丁寧＋打消。完答。

○「でも」がいけません。」なども当然○。

〔傍線部③〕

A〇2点

B〇1点

(模範解答例)

気を晴らそうとするがゆえに、歩き回っているのです【3点】

☆各加点要素の加点の条件

▲主語「私は」などはあってもなくても構わない。ただし、主語が違っていたら、▲1点減点。  
○文末の句点「。」は不問。

A 「気を晴らそうとするがゆえに」(2点)

※ 「心をゆかさんがために」の解釈

○ 「気晴らしをするために」の内容があれば○。「ゆかさん」の「ん」む「は意思だが、「ししよう」(気を晴らそう) となっても可○とする。

B 「歩き回っているのです」(1点)

※ 「まかり歩くなり」の解釈。

○ 「歩く」+丁寧。完答。断定「なり」(です)が無く、(ます)となっても丁寧が出来ていれば可とする。

〔傍線部④〕

A〇2点

B〇1点

(模範解答例)

力は尽きるが、影が離れる」とはない【3点】

☆各加点要素の加点の条件

○文末の句点「。」は不問。

A 「力は尽きるが」(2点)

※ 「力こそ尽くれ」の解釈

○ 「力尽きる」+逆接(「こそ」+已然形)。完答。

B 「影が離れることはない」(1点)

※ 「影離るる事なし」の解釈。

○ 現代語訳として、「影が」の「が」、「離れることは」の「は」などの助詞の補いができていればよい。  
○ 「くないのだ。」のように、断定が入っていても不問。○とする。

(解答)

A〇1点

※

ク活用「賢し」連体形＋名詞「人」＋

B〇2点

※

断定の助動詞「なり」連用形＋係助詞「こそ」＋

C〇1点

ラ行変格活用動詞「あり」連体形＋

D〇2点

伝聞・推定の助動詞「なり」已然形 【6点】

☆各加点要素の加点の条件

※活用語のみ加点対象。※の名詞「人」、係助詞「こそ」は加点しない。

ただし、間違っている場合、抜けている場合は▲1点減点。(0点以下になる場合は、減点しない。)

A 「ク活用「賢し」連体形」……………1点。このままの解答。完答。

B 「断定の助動詞「なり」連用形」……………2点。このままの解答。完答。

C 「ラ行変格活用動詞「あり」連体形」……………1点。このままの解答。完答。

D 「伝聞・推定の助動詞「なり」已然形」……………2点。推定の助動詞「なり」已然形のような解答でも可。

※例を示して、答え方を指定している。よって、同意でもこのままでないもの(書く順、不要な助詞が入っている、「賢し」が「かしこし」になっているなど)は加点対象ではない※も含めてその要素不可※。

問3 6点

A○1点

B①○1点

B②○1点

(模範解答例)

翁が、

悪政を正そうとしている

孔子に対して、

C①1点

C②2点

非常に無駄で

馬鹿げたことをする人間である

と評している。

【6点】

☆各加点要素の加点の条件

A「翁が」(1点)

※「誰が」の説明。

○「舟に乗っていた翁(じいさん・老人)が」なども、可○。

B「悪政を正そうとしている 孔子に対して」(2点)

※「誰に対して」の説明。

①「悪政を正そうとしている」に1点。

②「孔子に対して」に各1点。

○①の孔子の行為についての補足説明は、②が✕でも、「孔子に対する評価」につながるように書かれていれば○。

C「非常に無駄で 馬鹿げたことをする人間である」(3点)

※「どのような評価を下しているか」の説明。

①「非常に無駄で」に1点。

○本文の翁の評価「無益(＝無駄)の事をせらるるなり」を踏まえる。「無駄」「役に立たない」「現実的ではない」などの表現があれば可○。

②「馬鹿げたことをする人間である」に2点。

○本文の翁の評価「いみじき痴者かな」「きはまりてはかなき人にこそ」「きわめてはかなき事なり」などを踏まえる。「馬鹿な／はずかしい／おろかな／たわいない／むなしい」ことをする人間である」というような表現があれば可○。

問4 5点

ウ

問5 7点

(模範解答例)

A ①〇

B 〇3点

A ②〇

孔子の動作には「給ふ」「のたまはく」「給へ」「給ひ」「給ひ」などという尊敬語を用いながら、

A ③〇

A ④〇

(A ①②③④〇〇2点)

翁の動作に対しては、いつさい尊敬を用いていないことから、

C 〇2点

孔子にのみ敬意を払っていると考えられる。【7点】

☆各加点要素の加点の条件

A 「孔子の動作には尊敬語を用いながら、翁の動作には尊敬語が使用されていない」(2点)

※孔子と翁に対する地の文での尊敬語の使用についての言及。(二人に対する尊敬語使用の比較。)

○ 「尊敬語」は「敬語」としていても可○とする。

✕ 「尊敬語」を「謙讓語」としているものは不可✕。

B 「給ふ」「のたまはく」「給へ」「給ひ」(3点)

※設問条件の「使用されている敬語を全てあげながら」の内容

○ 4つすべてあって○(完答)

▲ 3つしか上がっていない場合、▲1点減点で△2点。

✕ 3つあっていても、間違ったものが1つでも混ざっていたら✕0点。

(例) 「給ふ」「**たまはく**」「給へ」「給ひ」↓✕0点。

○ 補助動詞の場合、上の動詞まで含めていても可○とする。

↓「孔子のたまはく」は不可✕。

C 「孔子にのみ敬意を払っている」(2点)

※設問条件の「孔子および翁に対しどのような敬意を払っているか」の結論

○ 敬意は孔子のみに払われているという内容。

○ 「①孔子には敬意が払われているが、②翁には敬意が払われていない」のような書き方ももちろん○。

問6 4点

イ

【四】 漢文（40点）

問1 4点＋5点＝9点

（1） 4点

（解答） 救<sub>レ</sub> 災 節<sub>レ</sub> 用、宜<sub>下</sub> 自<sub>二</sub> 貴 近<sub>一</sub> 始<sub>上</sub> 【4点】

☆加点の条件

（解答） 通り

- ※ 返り点以外のもの（送り仮名や読み仮名）を一カ所でもつけているものは×0点。
- ※ 返り点を文字の左下以外につけているものが一カ所でもあるものは×0点。

（2） 5点

A ○1点

B ○1点

C ○1点

D ○2点

（模範解答） 災害に遭った人を救うため 出費を節約するのは、地位の高い者から 始めるのがよい。

【5点】

☆加点の条件

A 「災害に遭った人を救うために」（1点）

※ 「災を救ふに」の訳

- 「災害」は「天災」「旱害」「日照り」なども可○。
- 「災害に遭った人」は、「災害の被害者」「災害の被害」なども可○。
- 「救う」は、「助ける」「救援する」なども可○。
- 「くために」は「くためには」「くのに」「くのは」「救おうとして」なども可○。
- ※ 「災害を救う」「災害を救援する」のように訳しているもの（「救う」の目的語が災害そのものになっているもの）は要素A加点なし×0点。
- ※ AがBの目的であること（「くために」「くのに」「くしようとして」など）が明確になっていないものは×0点。

B 「出費を節約するのは」（1点）

※ 「用を節するは」の訳

- 「出費を節約する」は、「財源を節約する」「（国）資産を節約する」「出費を減らす」なども可○。
- 「お金を節約する」も許容○。
- ※ 「財源を減らす」「（国）資産を減らす」としているものは×0点。
- 「くのは」「くことは」「くも可○。
- ※ A・Bが、C・Dの主語であること（くのは「くことは」が明確になっていないものは×0点（要素B ↓たとえば、「くのは」を「くには」「くためには」としているものは×0点。



C 「地位の高い者から」(1点)

※ 「貴近より」の訳

○ 「地位の高い者」は「高位の者」「身分の高い者」なども可○。

○ 「くから」は「くより」も可。

D 「始めるのがよい」(2点)

※ 「宜しくく始むべし」の訳

○ 「くのがよい」は「くのがようがよい」「くのが適當だ」なども可○。

○ 「始める」に、「まず」「最初に」などを補っているものは許容○。

△ 「くべきだ」「くねばならない」「くのが当然だ」は▲1点減点で△1点。

問2 5点×2＝10点

① A○2点

B○1点

C○2点

(解答)

いづ(ず)くんぞ

このり

あらん

【5点】

☆加点の条件

A 「いづ(ず)くんぞ」(2点)

※ 「安」の読み。

○ 「いづ(ず)くにか」「いづ(ず)くに」も可とする。

※ 他は一字でも異なっていればA×0点。

B 「このり」(1点)

※ 「此理」の読み。

○ 「このことわり」も可とする。

※ 他は一字でも異なっていればB×0点。

C 「あらん」(2点)

※ 「有」の読み。

○ 「あらんや」「も可とする。

△ 「ある」「あるや」としているものは▲1点減点で△1点。

※ 他は一字でも異なっていればC×0点。

② A○1点

B○2点 C○2点

(解答) あへ(え)て また じせず 【5点】

☆加点の条件

A「あへ(え)て」(1点)

※「敢」の読み。

○解答例のみ正解。

※ 解答例と一字でも異なっていればA✖0点。

B「また」(2点)

※「復」の読み。

△「または」としているものは▲1点減点で△1点。

※ 他は一字でも異なっていればB✖0点。

C「じせず」(2点)

※「不〴〵辞」の読み。

△「じさず」としているものは▲1点減点で△1点。

※ 他は一字でも異なっていればC✖0点。

問3 6点+4点=10点

(1) 6点

A○1点

B○1点

C○3点

D○1点

(模範解答) そのがい すなは(わ)ち ふをくは(わ)ふ(う)るよりも はなはだし

☆各加点要素の加点の条件

※すべてひらがな指定。ひらがな以外が混じっていたら、全体✖0点。

A「そのがい」(1点)

※「其害」の読み。

○「そのがい」も可○。

B「すなは(わ)ち」(1点)

※「乃」の読み。

C 「みくは(わ)ふ(う)るよりも」(3点)

※ 「く於加賦」の読み。

▲ 「くは(わ)ふ(う)る」を「くは(わ)ふ(う)くは(わ)へ(え)る」にしているものは▲2点減  
点で△1点。

D 「はなはだし」(1点)

※ 「甚」の読み。

(2) 4点

(模範解答) 税を増やすよりも 大きい。【4点】

☆各加点要素の加点の条件

○ 同意表現可。

A 「税を増やすよりも」(2点)

○ 「税を増やす」は「増税する」「税を上げる」なども可○。

○ 「税」は「税金」も許容○。

○ 「くよりも」は「くより」「く以上に」なども可○。

B 「大きい」(2点)

○ 「甚だしい(はなはだし)」「ひどい」「すさまじい」「甚大だ」なども可○。

問4 2点×2＝4点

④ (カ) ⑤ (ア)

※ ( ) の有無は問わない。

問5 各1×4＝4点

a 〓 おもへ (え) らく b 〓 けだし

c 〓 やまかず d 〓 と

○ ( ) 内の現代仮名遣いは可○。

※解答通り。「送り仮名も含めて、ひらがなの指示アリ。カタカナ不可。

○ ( ) 内の現代仮名遣いは可○。

問6 3点

(ウ) (エ) (コ)

☆各加点要素の加点の条件

○ 正解一つにつき1点を与える。

▲ 不正解一つにつき減点1点。

※ただし最低点は0点。

〔採点例〕

(ウ) (エ) (コ) …… 1点×3 ≡ 3点

(ウ) (エ) …… 1点×2 ≡ 2点

(ウ) (エ) (キ) …… 1点×2 マイナス1点 ≡ 1点

(ウ) (オ) (カ) …… 1点 マイナス2点 ≡ 0点